

思案坂・辭職坂

「思案坂」、「辞職坂」もあれば、「泣きつ面峠」もあった。

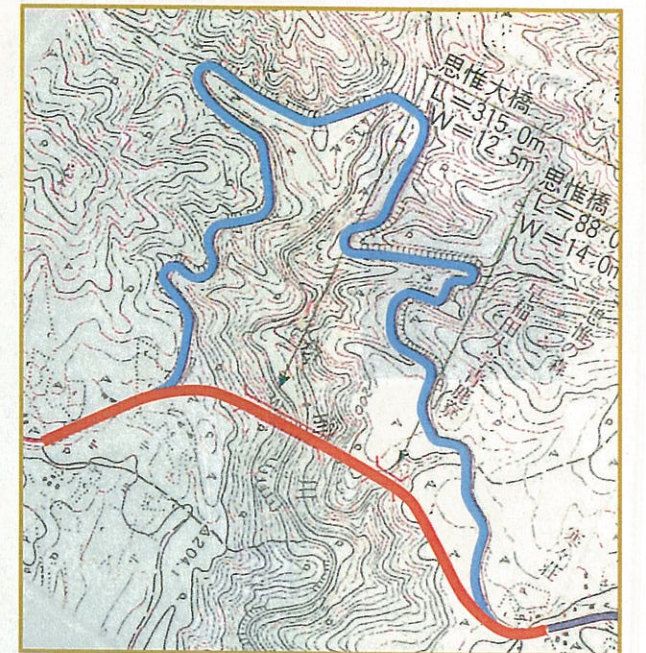
先人たちが歩いた道をたどり
その苦勞をしのびながら
整備された道路の
ありがたさをかみしめる
歴史の道トレッキング

行こか戻るか「思案坂（しあんざか）」
いっそ辞めよか「辞職坂（じしょくざか）」
そんな名前が付けられるほど
昔の田野畑村の道はけわしいものでした。

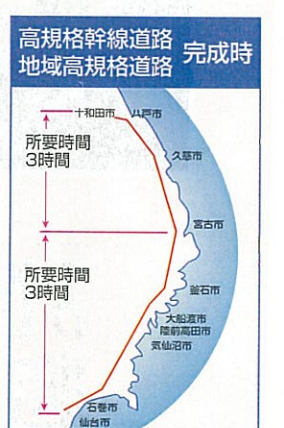
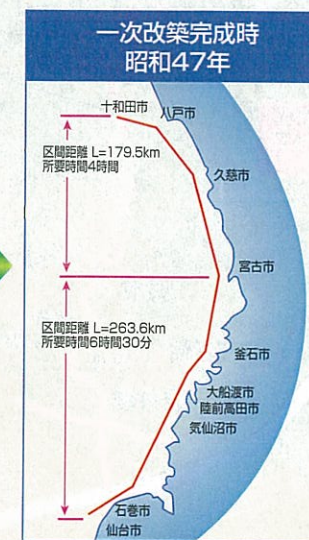
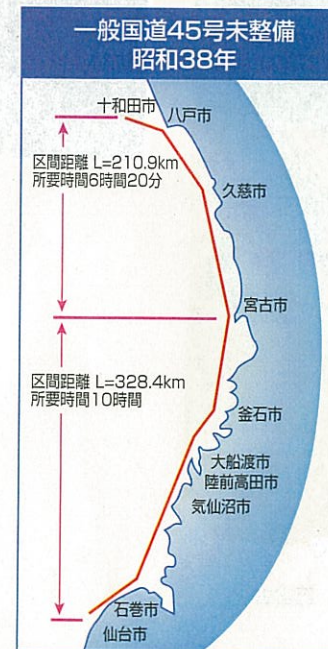
これまでの道路整備により地域振興が図られてきました。

思惟大橋ができる前の国道45号（赤線が現在の45号）

■ 思惟大橋ができる前…4.7km
■ 現在の国道45号 …… 1.8km



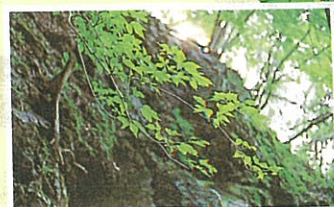
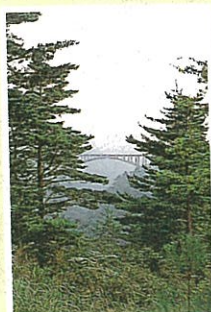
一般国道45号 所要時間の変遷



**三陸地域の発展には、
まだまだ道路整備が
必要です。**

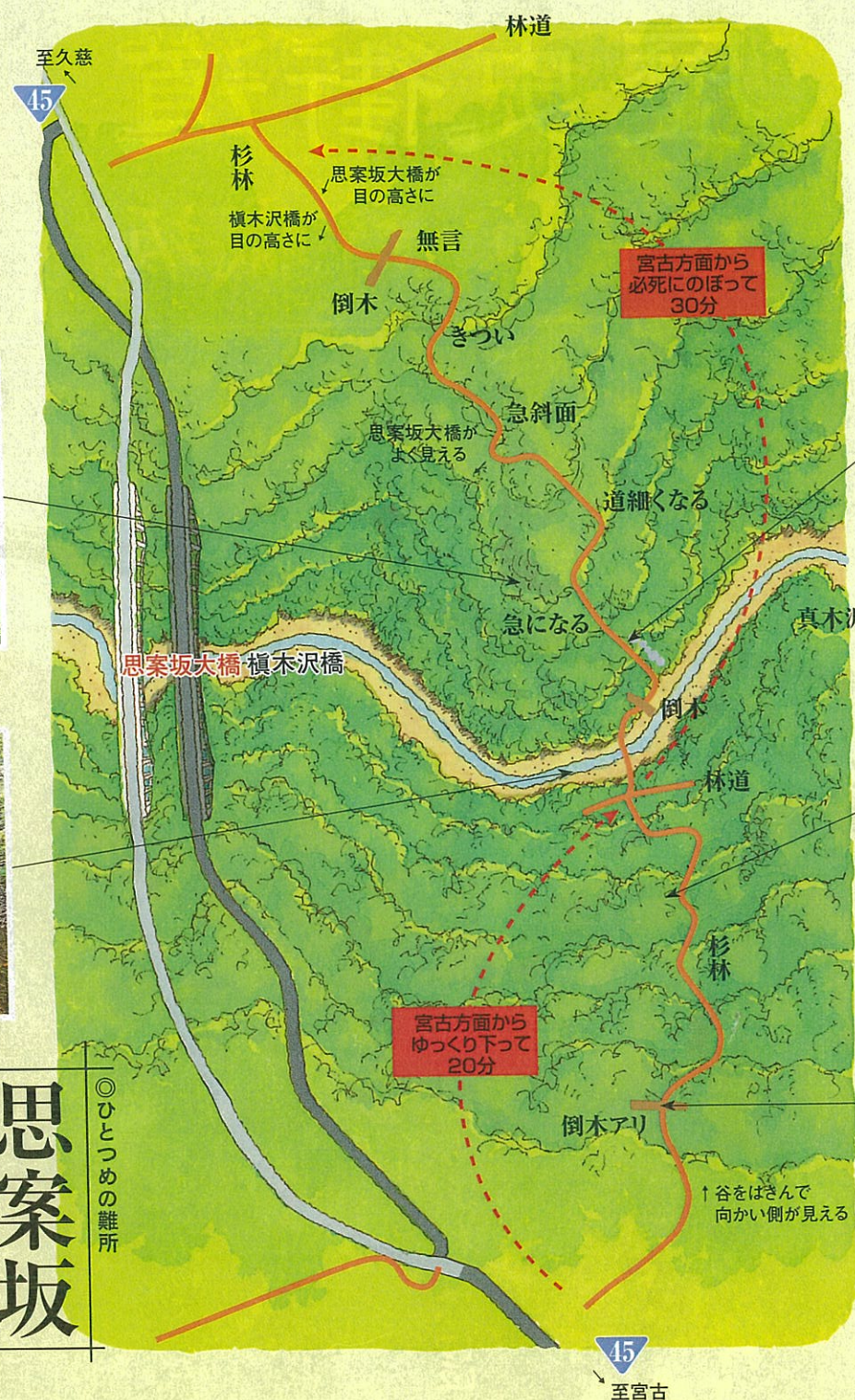
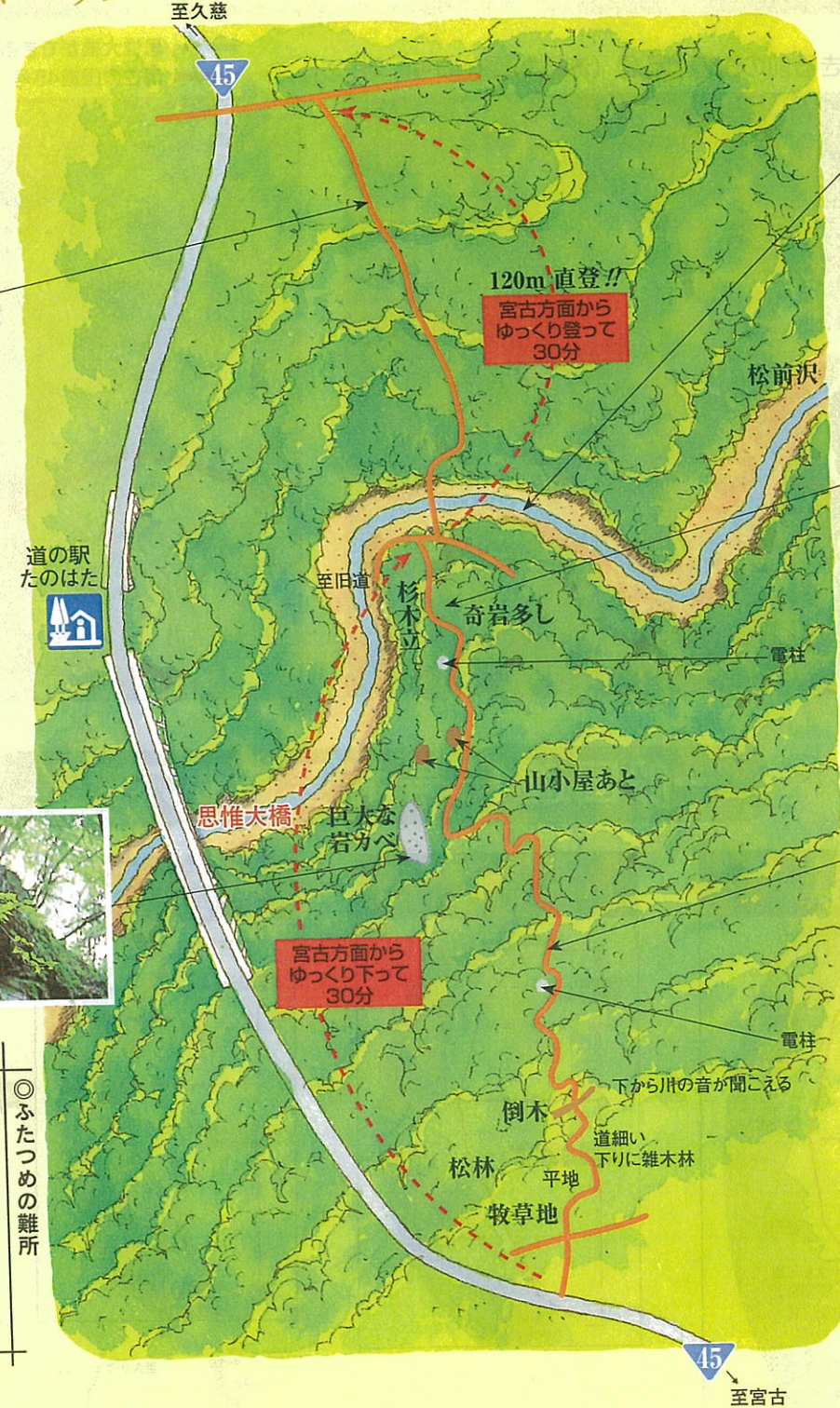


歴史街道ルートマップ



辞職坂

◎ふたつめの難所



ナゾの石組
『炭焼小屋の土台とも
言われているが...』



思案坂

◎ひとつめの難所

「思案坂」、「辞職坂」もあれば
「泣きッ面峠」もあった
くたのはた道ものがたり

日本一の海岸美「北山崎」に代表される北部陸中海岸の地形は、大地が隆起してできた段丘海岸です。

そこには、長い年月、川の侵食によってできた深さ百メートルものV字谷がたくさんきざまれています。

豪快で変化に富んだその景観は、見る人を魅了してやまない自然美ですが、その半面、ここに暮らす人々にとってはたいへん厳しい地形でした。

ひとつ隣の港へ行くのにも山道を避け、舟をこぎ、岬を回って行ったのだと言います。そうした時代が現在の国道が整備される昭和三十年代まで続いていた。

現在の国道45号横木沢橋が架かる谷をたどる旧道に「思案坂」(しあんざか)、思惟大橋が架かる松前沢をたどる旧道に「辞職坂」(じしょくざか)があります。

この呼び名の起源について『新たのはた風土記』に書かれています。

宮古に郡役所があった時代(明治〜大正時代)、役所員が管内の視察や出張で田老、小本と北上しながら用事を済ませ、そして田野畑に入ると滝畔沢(たきのしりさわ)、弥生沢、真木沢、松前沢といった百メートル以上の深い谷が次々とたちはだかる。はじめの坂で行こうか戻ろうかと思案し、次の坂ではこんなところには時々出張しなければならぬのならいっそ役人を辞めてしまおうと観念する。そこで思案坂、辞職坂と呼ばれるようになった……と。

このほかにも「泣きッ面峠」など、不名誉な名前の付いた峠が村内にあったといわれ、先人たちがいかにか道で苦労し、道の整備を望んでいたかがしのべれます。

いま、舗装道路と橋とトンネルによって、自動車という文明の利器によって、私たちは何の苦労もなく道をたどり、暮らしています。その便利さに慣れ、ともすれば道のありがたさを忘れてしまいかねません。

いまこそ、先人たちがたどった道を体験し、そのつらさと道の大切さを実感し、後世に語り継ぎたいものです。